

2025年度 成人科テキスト

ぶどうの木

第1号



神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。
夕べがあり、朝があった。第一の日である。

創世記 1 章 4-5 節

名前 _____

常盤台バプテスト教会 「教会の約束」

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマをうけて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

私たちは、聖書が信仰の規範であることを信じ、その教えに従います。

私たちは、この教会が人によって成ったものでなく、神によって成ったものと信じます。

私たちは、主の日の礼拝を守り主をたたえ、教会の集まりにつとめて出席し、バプテスマと主の晩餐の二つの礼典を守ります。

私たちは、教会のきよくなること栄えることを祈り、主にある兄弟姉妹の愛をもって愛しあい、互いの喜びと悲しみを共に分けあいます。

私たちは、この教会をささえ、全世界に主の福音をのべ伝え、神のみむねの行われるために、喜んで奉仕し、献金をいたします。

私たちは、日々の祈りと家庭の礼拝につとめ、神よりあずかった子供たちをみむねにそうように教え育てます。

私たちは、きよい心と正しい行いをもって、まことの道をあらわし、隣り人を愛し人々を救い主に導きます。

私たちは、主と会う日まで、この約束を守ります。



4/13	第1課「新しい契約に生きる交わり」	・・・	P.4
4/20	第2課「“私”ではなく“私たち”」	・・・	P.6
4/27	第3課「神の恵みへの応答」	・・・	P.8
5/11	第4課「イエスさまこそ私たちの主」	・・・	P.10
5/18	第5課「“主の教会”に加わる」	・・・	P.12
5/25	第6課「約束を実現へと導く、聖霊の助け」	・・・	P.14

執筆担当：第1～3課 郷 健人 兄 第4～6課 郷 秀男 兄

表紙イラスト：友納 聖子 姉

第1号の参考図書

- 「バプテストの教会契約」 1993年 村椿真理 ヨルダン社
「教える喜びと学ぶ喜び」 2009年 朴永基 いのちのことば社
「バプテストの信仰」 2015年 日本バプテスト連盟宣教研究所
「人生を導く5つの目的」 2015年 リック・ウォレン PDJ
「聖書教理がわかる94章」 2016年 J・I・パッカー いのちのことば社
「バプテスト教理問答書」 2004年 鈴木昌 訳編 東京聖書教会

輝いて生きる

1993年全国少年少女大会テーマソング

詞 少年少女大会スタッフ

曲 菊地るみ子



1. 主 は わたしたち の ために い の ちをすてて くださった
2. あ な たがたはこ の 世では な や みがおおい けれども



そ れ によつてわ たしたちは あいということを し ったー
ゆ う きをだしあ ゆみだせと かたりかけてく だ さ ったー



か が や い て い き ー る ー すば



らしい のちあ たえられた か が や い て い き ー る ー いか



されてい るーこ の よ るーこび ー |ヨハネ3:16

威光・尊厳・栄誉

阿内源一 作詞
作曲

F C/E Dm F/C B \flat F/A G/B C F C/E Dm F/C

せ か い じ ゅ う - ど - こ で - で も - あ た ら し い - う た

G/B G7/F C/E C7 F C/E Dm F/C B \flat F/A G/B C F C/E

を さ さ げ よ 主 に う た え ほ - め た た - え よ - み す く い

Dm F/C B \flat D B \flat C F B \flat C F B \flat B \flat F

の し ら せ を つ げ よ ま こ と に 主 は お お い な る か た さ ん び さ れ る べ き か

C/E F F/A C/E B \flat D F/C G/B G7/F C/E C7 F C/E

た い こ う と そ ん げ ん と え い よ こ う え い と ち か ら - た だ 主 だ け

Dm F/C B \flat F/A G/B C F C/E Dm F/C B \flat B \flat C C7 F

を れ い は い - せ よ - て ん を つ く り - さ さ え て い る 主

第1課 「新しい契約に生きる交わり」

～4・5月の約束文～

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

私たちの教会では、毎月第1主日の“主の晩餐式”の始まりに、「教会の約束」を唱和しています。皆さんは初めて「教会の約束」を聞かれたとき、どのような思いになったのでしょうか。また今は、どのような思いで読まれているのでしょうか。2025年度の成人科を通して、「教会の約束」とは何かを問い直し、この約束の本質を共に学んでまいりましょう。

エレミヤ書 31章31～33節

見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

1. 「約束」？「契約」？

私たちは現在「教会の約束」という言葉を用いています。しかし、元となる言葉は“Church Covenant”であり、「教会の契約」と訳される方が自然です。誰かと「約束」をするのと、「契約」をするのでは、少し重みが違って感じられないのでしょうか？「約束なら守れなくてもいいよね！」とは考えないにしても、「これは契約なんだ」と自覚することによって、唱和する際の思いも、また唱和を通して与えられる思いも、変わってくるかもしれません。

2. 新しい契約に生きる交わり

17世紀の英国で誕生したバプテスト教会は、幼児洗礼を否定し、自覚的な信仰によってバプテスマを受けた者の共同体を目指しました。そしてバプテスト教会の創始者たちは聖書から教会のあるべき姿を探求した結果、「キリストの教会」とは「キリストとの新しい契約に生きる交わり」である、という真理を見出すに至ったのです。冒頭のエレミヤ書31章にも示される「新しい契約」とは、イエスさまの十字架によって成就した、贖罪の恵みです。ビジネスで行う契約のように、私たちが何か同意して署名したわけではありません。神さまからの一方的なお恵みに対して心を開き、感謝と共にそれに応じていこうとする主体的な集まりが、バプテスト教会なのです。

3. 悔い改めの機会として

「教会の約束」には多くの事柄が記述されており、全て「私たちは～～します」という表現で、力強く宣言しています。日本人が好みがちな、「～～できるよう善処します！」のような曖昧な表現は用いられていません。この力強さを前に、唱和に対して心がひるんだり、全てを守りきれない葛藤の中で重荷を感じたりした方もいるかもしれません。「教会の約束」は全て完全に実行できていなければ、それを唱和するに値せず、またバプテスト教会の一員としても失格なのでしょうか？

マルコによる福音書16章15－16節

それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。

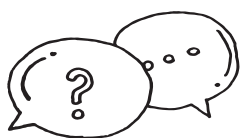
ガラテヤの信徒への手紙3章11節

律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです。

使徒言行録10章31節

主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。

私たちは、人は信仰によってのみ救われると信じる群れです。それはかつての律法主義のように「○○をすれば救われる」という考え方には立たない、ということです。「教会の約束」は、神さまの怒りを恐れたり、互いを裁きあったりするために用いるものではありません。「信仰によって救われる」ということに甘んじて、かえって不信仰な生活に陥ってしまわないよう、自らを省みて悔い改める機会として、また互いの励ましとして、共に唱和しているのです。



- 信仰生活の中で、どれくらい「教会の約束」を意識していますか。
 - 「教会の約束」の中で、疑問に思う文や表現はありますか。
 - 「教会の約束」によって、思いや行いを変えられたことはありますか。
- 話してみましょう

第2課「“私”ではなく“私たち”」

～4・5月の約束文～

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

「教会の約束」は、全て「私たちは」を主語として作られています。ではもし、主語が「私は」だったとしたらどうでしょうか？「教会の約束」が持つ意味、共に唱和する意味が変わってくるのでしょうか？

今回は、「私」ではなく「私たち」という言葉が選ばれた意味ついて、共に考えてまいりましょう。

ローマの信徒への手紙 10章8～13節

では、何と言われているのだろうか。

「御言葉はあなたの近くにあり、
あなたの口、あなたの心にある。」

これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。ユダヤ人とギリシア人の区別はなく、すべての人に同じ主がおられ、御自分と呼ばれ求めるすべての人を豊かにお恵みになるからです。「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

1. 一人の信仰者として

「教会の約束」の中で「私たちは～～します」と繰り返すことから、バプテスト教会では集団としての一致した信仰が何よりも大切で、皆同じような信仰生活を送るのだろうか…と思う方がいたとしても、不思議ではありません。しかしバプテスト教会においてまず大切にされるのは、一人ひとりが自覚的な信仰を持つことです。イエスさまの贖いを通して成就した「新しい契約」に生きると自ら決意することが、全ての前提にあるのです。

バプテスト教会の特色である幼児洗礼の否定も、自ら決意することを重んじている現れです。バプテスト教会が生まれた当時、自覚的な信仰を重んじる立場の教派であっても「信徒同士の子なら幼児洗礼を受けられる」と考えるケースがありました。バプテスト教会はこうした立場とも距離を置き、徹底して一人ひとりが“個の信仰者”であることを大切にしていたのです。

2. 契約の共同体として

皆さんがただ一人でキリスト者として生きるのではなく、教会という群れに集われているのは何故でしょうか。深く考えていくと、きっとそれぞれが感じてきた「集うからこそ恵み」が様々に分かち合えるのではないのでしょうか。

コリントの信徒への手紙一 1章9節

神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

一方で、いくら集っているとは言っても個々の考え方があまりにも違っていたら、喜びよりも戸惑いや混乱が大きくなっていたかもしれません。バプテスト教会の創設者たちは“個の信仰者”の自覚的な信仰を重んじた上で、教会が教会として成り立つには「教会契約」が必要であると考えました。これは教会から神さまに対する契約でもあり、信徒同士の契約でもありました。「教会契約」に署名することをもって一員と認める、といったことも珍しくなかったようです。

常盤台教会の「教会の約束」は、署名こそ求めないものの、一人ひとりが、また教会全体が主に仕えていく上で大切にすべきことが詰まっています。互いに愛しあい、励まし合い、時には欠点も認め受け入れあいつつ「教会の約束」を共に実践していこう、と一人ひとりが決意する時に、「私」ではなく「私たち」を主語とした「教会の約束」が心に備えられていくのです。

ローマの信徒への手紙 15章5－7節

忍耐と慰めの源である神が、あなたがたに、キリスト・イエスに倣って互いに同じ思いを抱かせ、心を合わせ声をそろえて、わたしたちの主イエス・キリストの神であり、父である方をたたえさせてくださいますように。だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

コリントの信徒への手紙二 13章11節

終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにきなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。



話してみましょう

- どんな時に、教会に集うことの喜びを感じますか。
- 今でも、署名を求めるような“契約”があった方がよいと思いますか。
- 唱和する際、「私たち」はどこまでの方を含むとイメージしていますか。（唱和している人のみか、出席者全員か等）

第3課「神の恵みへの応答」

～4・5月の約束文～

私たちは、**神のめぐみによって**イエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

もし、「教会の約束」の冒頭から、今回のキーワード「神の恵みによって」を除いたらどうなるでしょうか。「私たちはイエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので…」文章としては成立しているものの、どこかに違和感が残ります。なぜ、「神の恵みによって」という言葉が必要なのでしょう。

エフェソの信徒への手紙 3～8節

わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました。こうして、神は、キリスト・イエスにおいてわたしたちにお示しになった慈しみにより、その限りなく豊かな恵みを、来るべき世に現そうとされたのです。事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

1. 自分の力ではなく

讃美歌「輝いて生きる」の歌詞はこのように始まります。

「主は私たちのために命を捨てて下さった。

それによって私たちは愛ということを知った。」

イエスさまは十字架での苦しみすらいとわずに、真っ直ぐに私たちを愛してくださいました。この大きな愛を知った時、私たちは自分の存在について肯定的に価値を見出し、生きる力が湧き上がってくるのです。

皆さんも人生のどこかでイエスさまと出会い、イエスさまの深い愛に触れると共に、その愛が自分に対してのものだと気付いた瞬間があるのではないのでしょうか。そして、そこに至るまでの出来事一つひとつが、自分の意志や計画、能力を遥かに超えた、見えない導きによって備えられたと実感している方も多いのではないのでしょうか。いや！1から10まで自分の意志と力で成し遂げて信仰に至りました！と思う方でない限り、「神の恵み」によって自分の人生が変えられた、という喜びと感謝を込めて、「教会の約束」を読み始めることができるのです。

ヨハネによる福音書 15章16節

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。

コリントの信徒への手紙一 1章26節、30-31節

兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。

――

神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

2. 応答の思い

「神の恵みによって」新しい人生が与えられたことを全ての前提として、「教会の約束」は書かれています。つまり、書かれていることの一つひとつは、いかに神の恵みに感謝し、応答するかを具体的に考え、言葉にしたものと言えます。常に全てを完璧に実践することは困難かもしれませんが、「できなくても仕方ないよね」という考えに甘んじていると、あっという間に真逆の生活にすら陥りかねません。月に1度であっても、「私たち」の決意として共に唱和する中で、本当に自らや教会全体はここに書かれた歩みが出来ているかを問い、不足に気付かされた時は主の導きを祈り求める。この繰り返しを通して、私たちはより豊かに応答できる者となっていくのではないのでしょうか。

ローマの信徒への手紙 12章2節

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。



- イエスさまと出会ったきっかけについて分かち合いましょう
- どのような時に、あるいはどのような御言葉から、イエスさまの愛を感じますか。
- 話してみましょう • 「教会の約束」に含まれるかどうかを問わず、「応答」として大切にしていることはありますか。

第4課「イエスさまこそ私たちの主」

～4・5月の約束文～

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

私たちの約束文はイエス・キリストを主であると信じますと信仰告白しています。あらためて「主」とはどのような性格をもたれて存在するお方であることを聖書に聴いてまいりましょう。

ヨハネによる福音書 20章27～29節

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

1. わたしの主、わたしの神

ここで使徒トマスはイエスさまを主であり、神と告白しています。復活されたイエスさまはご自身の姿を実際にその目で見たから信じたのか、見ないで信じることができる人は、幸いであると言われました。現代を生きる私たちは直接にはイエスさまのお姿を見ることは出来ませんが聖霊が働いてくださりイエスさまを救い主と信じることが出来ます。私たちを一人ひとり愛してくださり永遠の救いへと導くことができるただおひとりのお方が「わたしの主、わたしの神」なのです。

2. 主

神を言い表す言葉は、旧約の時代には神への畏敬のゆえに神の名を直接表す言葉は使われなくなり「存在する者・現存する者」という意味で「アドーナイ(主)」と読まれるようになりました。

ギリシャ語訳聖書では「キュリオス(主)」と訳され、使徒たちは復活されたイエス・キリストを指すために「主」と呼びました。

3. 神

私たちの信じる神はどのような方かを「バプテスト教理問答書」ではこのように答えています。

「神はその存在、知恵、能力、聖、義、善、真実において、無限、永遠、不変の霊である。」

そして、「唯一の生ける真理の神だけがおられ、神には三人格があり、父、子、聖霊であって、この三人格はおひとりの神であり、本質において同一、能力と栄光において同等である」

(告白)

マタイによる福音書27章54節

百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(イエス・キリストは主である)

フィリピの信徒への手紙2章6-11節

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。

(神は霊)

ヨハネによる福音書4章24節

神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。

(神はただお一人)

申命記6章4節

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

私たちはイエス・キリストを主と告白し、信じて教会に加えられた群れです。時折、長い信仰生活ではあるけれど救いの確信がなかなか持てないと告白される方がおられます。ご自身の信仰生活を謙遜に振り返り、そのように言われているのだと思います。

けれども聖書は「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。ロマ10:9」と語っています。この真理は「救われるかもしれない」のではなく「救われるのです」 救いは私たちの願望ではなく主なる神の約束なのです。この溢れる恵みに感謝して希望の信仰生活を送ってまいりましょう。



話してみましょう

- 心で信じていることで充分で、あえて口に出してまではと考えることがありますか。
- 見ないでも信じることができる心の拠りどころはあなたにとっては何でしょうか。
- 主なる神が人格をもっておられることを実感できますか。

第5課「“主の教会”に加わる」

～4・5月の約束文～

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、
バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、
聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

私たちの常盤台バプテスト教会は主イエス・キリストを救い主と信じて信仰告白した者はバプテスマ(浸礼)を受けて教会のメンバーとなり教会に加わります。それは共に礼拝に与り、奉仕を通してキリストの身体なる教会を共に支え、建て上げていくことなのです。

エフェソの信徒への手紙 2章19～22節

従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです。

1. バプテスマを受けて

私たちはイエスさまに出会い、イエスさまが私の救い主と心に受け入れることが出来たならば救われます。では、なぜバプテスマを受けるのでしょうか。それはキリストを信じた者はバプテスマを受けなさいとキリストご自身が命じられているからです。その見える形はキリスト自らがバプテスマのヨハネにより受けられたこと(水に浸める・浸礼)に倣うものです。そして、口で信仰告白を言い表してバプテスマを受けることが自分自身の信仰を公に表明することでもあるのです。

2. 主の教会に加わる

新約聖書は、信仰告白してバプテスマを受けたすべてのキリスト者は地域の「見える教会」である各個教会で信仰生活をともにし、礼拝するために共に集い、教会の養育と導きを受け入れて証しと奉仕の働きに加わることを前提としています。そこに集うキリスト者との交わりと相互牧会に加わることで神に対しても自分自身の信仰も成長し成熟させていただけるのです。このように教会と私たちキリスト者の人生とは切り離すことはできないのです。私たちは教会をとおして信仰を養い育てられ、生きて働かれる神に触れて、キリストは今も生きておられて私たちを執り成しておられることを知るのです。

(教会につながる)

ヨハネによる福音書15章5節

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

(バプテスマ)

ローマの信徒への手紙6章1～4節

では、どういうことになるのか。恵みが増すようにと、罪の中にとどまるべきだろうか。決してそうではない。罪に対して死んだわたしたちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるためにバプテスマを受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるためにバプテスマを受けたことを。わたしたちはバプテスマによってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

(教会での信仰生活)

ヘブライ人への手紙10章25節

ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。

私たちの加盟している日本バプテスト連盟につらなる諸教会、伝道所は2023年の報告では全国に316あります。在籍会員は31,429名、礼拝出席は10,091名おられます。東京基督教大学がデータブック2023で「所属なき信仰」についてレポートしています。「所属なき信仰」とは教会には所属しないがキリスト教には愛着や親近感を持ち、個人的には信仰を持ち続けておられる方々です。これら方々は次の三つのパターンに分けられます。①聖書やキリスト教には関心があるが教会に行く機会がない ②聖書を読みキリスト教の教えには共感するが教会には行きたくない ③以前は教会に行っていたが様々な理由で、今は教会に行っていない これらの方々はある統計上では日本の人口の約30%に達します。皆さんはどう感じになりますでしょうか。



話してみましょう

- 教会に属しない信仰生活をイメージしてみましょう。
- 教会生活で辛いと感じたことがありますか。
- 信仰を教会以外の周りの人たちに知らせていますか。

第6課「約束を実現へと導く、聖霊の助け」

～4・5月の約束文～

私たちは、神のめぐみによってイエス・キリストを主と信じ、バプテスマを受けて、主の教会に加わったので、

聖霊の助けにより喜んで互いにこの約束をいたします。

「約束いたします。」と誓約したのは私たちです。約束は破っても赦される、契約ではそうもいかないだろうと私たちは考えてしまいます。「教会の約束」は私たちの側から神と教会の会衆に向けて結んだ契約です。この契約は「教会の約束」に記されたすべての約束を守るというものです。しかし、弱い私たちは完全には守り切れない自らの現実を知るときに聖霊が助けをくださらなければ守ることが出来ないことを知るのです。聖霊は仲介者として神に執り成してくださいませ。また、私たちの間をイエスさまの執り成しにより互いを励まし合う、赦し合う群れとして成長させ、ときに試練を通して約束をまもる成熟した群れとなるように導いてくださるのです。

ヨハネによる福音書 16章13～14節

しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。

1. 聖霊・助け主

聖霊は父なる神と子なるキリストと全く同じ位格(人格)をもっておられる神です。聖霊は私たちのうちに住みながら、人格的にキリストに執り成すために働かれています。私たちが聖霊の助けを人格的に求め、歩むときにキリストを知り、神を知る喜びに満たされます。

(聖霊の働き)

テトスへの手紙 3:5～7

神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。神は、わたしたちの救い主イエス・キリストを通して、この聖霊をわたしたちに豊かに注いでくださいました。こうしてわたしたちは、キリストの恵みによって義とされ、希望どおり永遠の命を受け継ぐ者とされたのです。

2. 約束・契約

約束する主体は、そこに集う教会員が交わす約束ですが、第一義的には神と教会員との間の約束(誓約)であり、第二義的に教会員相互間の約束です。信仰生活を

主に委ね、常に約束の原点に立ち返り、悔い改め続けるという意味を表すものです。約束を完全には守り切れない私たちを聖霊が助けてくださり、相互牧会の恵みに喜びをもって与ることができるのです。

(アブラハムの信仰)

ローマの信徒への手紙4章20－21節

彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛美しました。神は約束したことを実現させる力も、お持ちの方だと、確信していたのです。

(導き)

ガラテヤの信徒への手紙5章25節

わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。

(執り成し)

ローマの信徒への手紙8章26－27節

同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださるからです。

聖霊が働かれると教えられても、イエスさまのように親密感・現実感が湧いてこないことはありませんでしょうか。しかし、私たちがイエスさまを慕い求めるのは聖霊が私たちの内に働いてくださっているからなのです。ヨハネによる福音書16章13～14節のみ言葉に聴きましょう。

「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。」

旧約聖書では父・御子・聖霊の三位一体は明確には語られていませんが、新約聖書において明確に語られている真理です。



- 約束と契約の違いを考えてみましょう

- 喜んで互いに約束を守るときの恵みについて分かち合ってみましょう。

話してみましょう

- 聖霊の導きを覚えた経験を話してみましょう。

